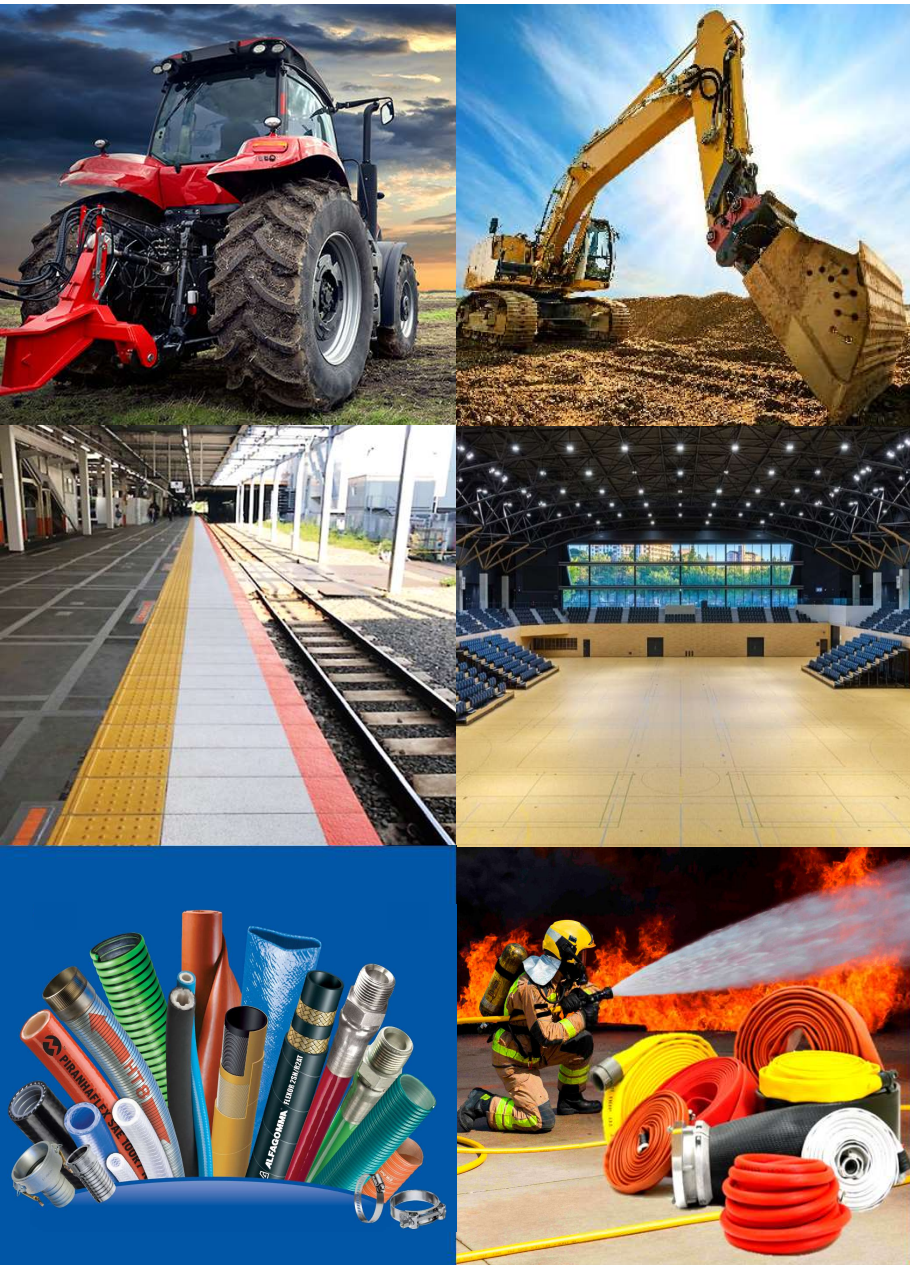




2025年 12月期

中間決算説明会

2025年 9月11日

クリヤマホールディングス株式会社
(東証スタンダード市場:3355)

代表取締役CEO 小貫 成彦

- 
- 01 2025年度 中間連結業績概要 P3
 - 02 2025年度 通期連結業績見通し P14
 - 03 中期経営計画の進捗状況 P17
 - 04 資本コストや株価を意識した経営の実現 P32



01

2025年度 中間連結業績概要

2025年12月期 | 中間決算説明会

(1)中間連結業績の概要

2025年12月期 | 中間決算説明会



(単位：百万円)

項目	2024年12月期 中間期 (実績)	2025年12月期 中間期 (実績)	前年同期比		2025年12月期 中間期 (予想)	中間期予想比	
			増減額	増減率(%)		増減額	増減率(%)
売上高	40,326	43,284	+ 2,958	+ 7.3	44,000	▲ 716	▲ 1.6
営業利益	2,780 (利益率 6.9%)	2,595 (利益率 6.0%)	▲ 185	▲ 6.7	1,800 (利益率 4.0%)	+ 795	+ 44.2
経常利益	3,106 (利益率 7.7%)	2,937 (利益率 6.8%)	▲ 169	▲ 5.5	2,100 (利益率 4.7%)	+ 837	+ 39.9
親会社株主に帰属する 中間純利益	2,109 (利益率 5.2%)	2,636 (利益率 6.1%)	+ 527	+ 25.0	1,700 (利益率 3.8%)	+ 936	+ 55.1

為替レート	2024年中間期(実績)	USD=152.25、CAD=112.07、EUR=164.59、RMB=21.05
	2025年中間期(実績)	USD=148.61、CAD=105.34、EUR=162.16、RMB=20.47
	2025年通期(予想)	USD=150.00、CAD=107.00、EUR=157.00、RMB=20.00

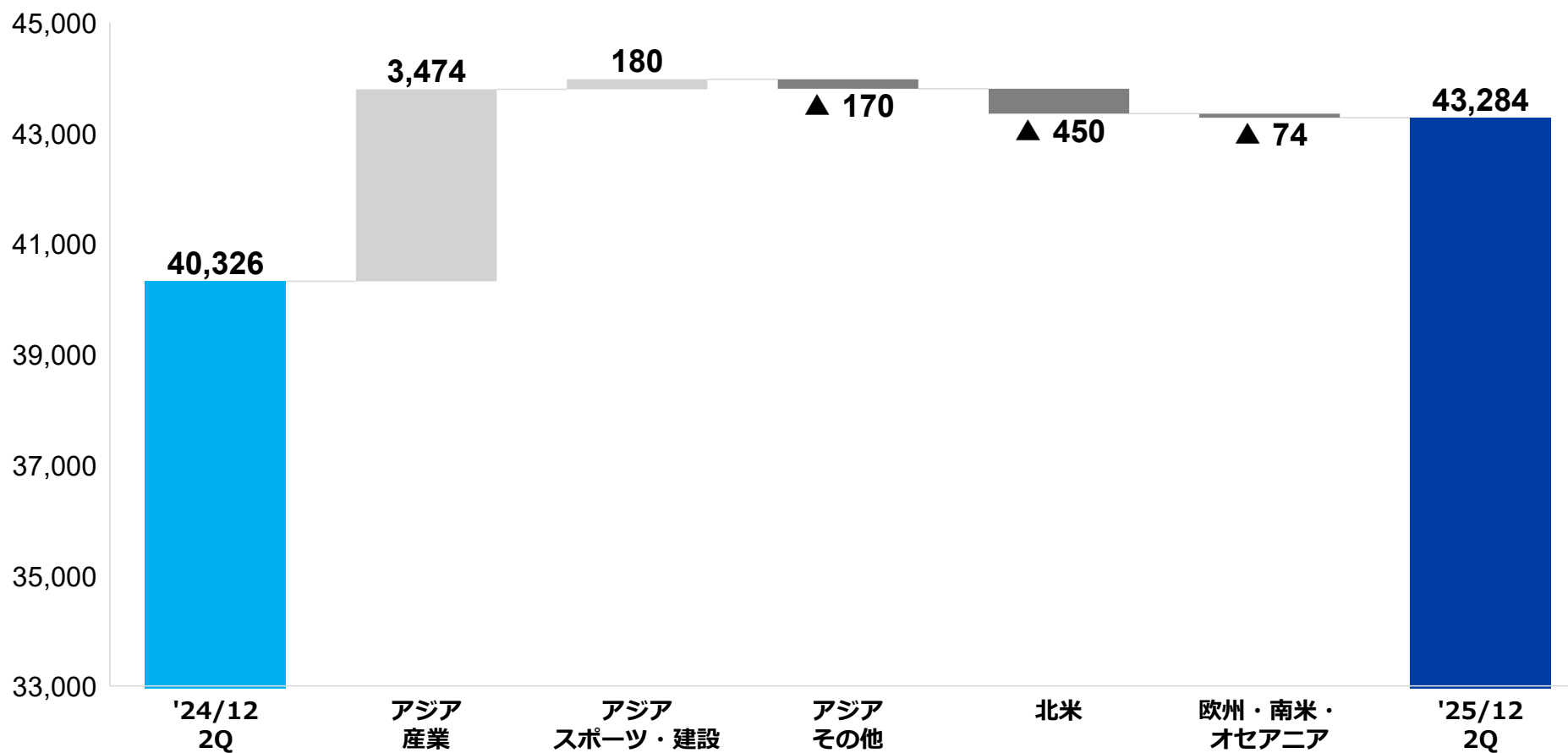
(2)売上高増減要因

2025年12月期 | 中間決算説明会



前年同期比 ▶▶▶ **2,958百万円**
7.3% **増収**

(単位：百万円)



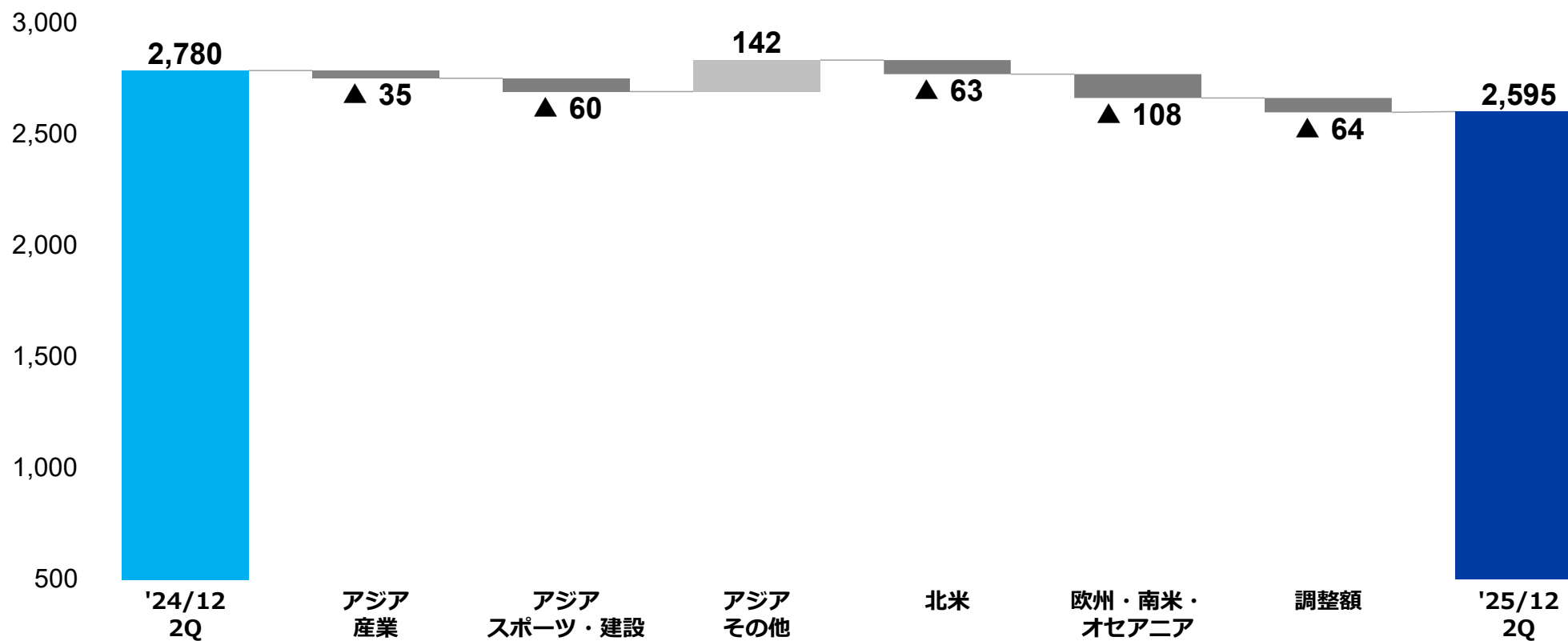
(3) 営業利益増減要因

2025年12月期 | 中間決算説明会



前年同期比 ▶▶▶ **▲ 185百万円**
▲ 6.7% **減益**

(単位：百万円)



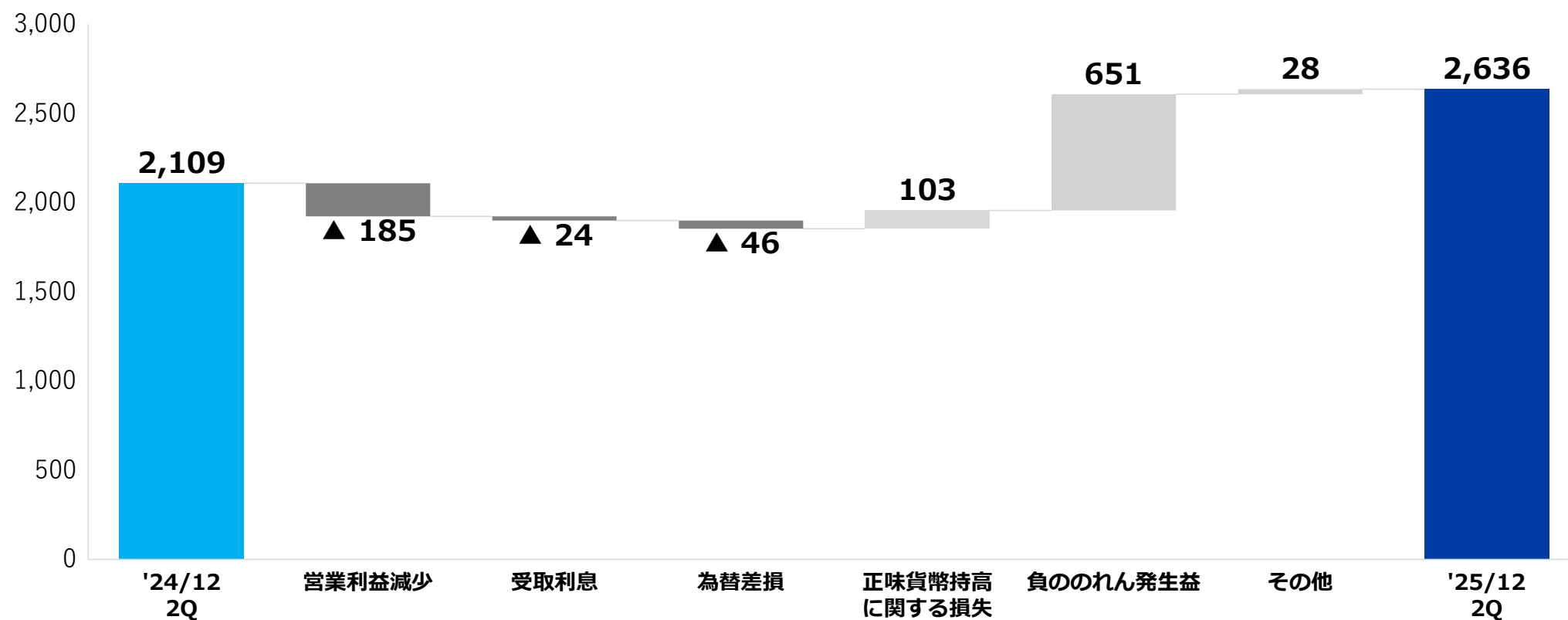
(4) 中間純利益増減要因

2025年12月期 | 中間決算説明会



前年同期比 ▶▶▶ **527百万円**
25.0% **増益**

(単位：百万円)



(5)セグメント別売上高・営業利益

2025年12月期 | 中間決算説明会



(単位：百万円)

セグメント		2024年12月期 中間期 (実績)	2025年12月期 中間期 (実績)	前年同期比	
				増減額	増減率(%)
アジア事業	売上高	13,483	16,966	+ 3,483	+ 25.8
	営業利益	1,373	1,421	+ 48	+ 3.5
	産業資材	8,560	12,034	+ 3,474	+ 40.6
	営業利益	1,100	1,065	▲ 35	▲ 3.1
スポーツ・建設資材	売上高	4,538	4,718	+ 180	+ 3.9
	営業利益	439	379	▲ 60	▲ 13.7
その他	売上高	384	214	▲ 170	▲ 44.3
	営業利益	▲ 165	▲ 23	+ 142	—
北米事業	売上高	23,763	23,313	▲ 450	▲ 1.9
	営業利益	1,725	1,662	▲ 63	▲ 3.6
欧州・南米・ オセアニア事業	売上高	3,078	3,004	▲ 74	▲ 2.4
	営業利益	320	212	▲ 108	▲ 33.6
連結	売上高	40,326	43,284	+ 2,958	+ 7.3
	営業利益(※)	2,780	2,595	▲ 185	▲ 6.7

※全社費用はセグメント別の営業利益には案分しておりません

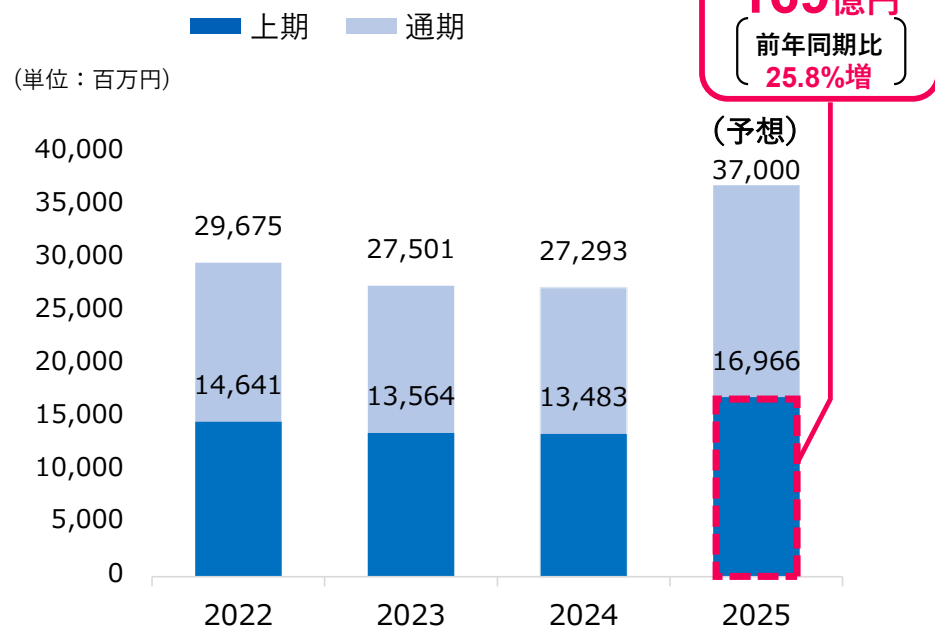
(6)アジア事業

2025年12月期 | 中間決算説明会

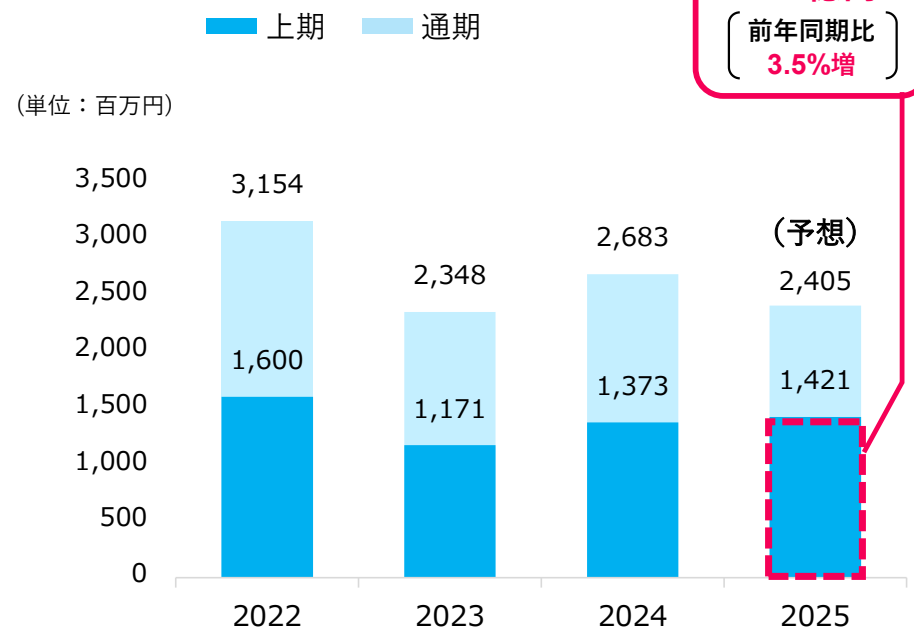


- 産業資材事業では、農機・建機等の生産台数が第2四半期より若干持ち直し、尿素SCR用モジュール・タンクや各種樹脂・ゴム製品等の販売が前年並みの水準を確保。また、船舶・プラント向け商材の販売が増加。中国は景気低迷により建機の実生産台数が停滞する環境下でも販売機会を逃さず、同国での販売が増加。加えて、4月にグループ化した株式会社ミトヨの業績を連結に取り込み。営業利益は、グループ化に伴う費用計上等により減益。
- スポーツ・建設資材事業では、文教施設や公共の体育館用床材、鉄道関連商材の販売が減少したものの、当社オリジナル製品である商業施設向け床材の販売が増加。営業利益は、商品構成の変化等により減益。

売上高推移



営業利益推移



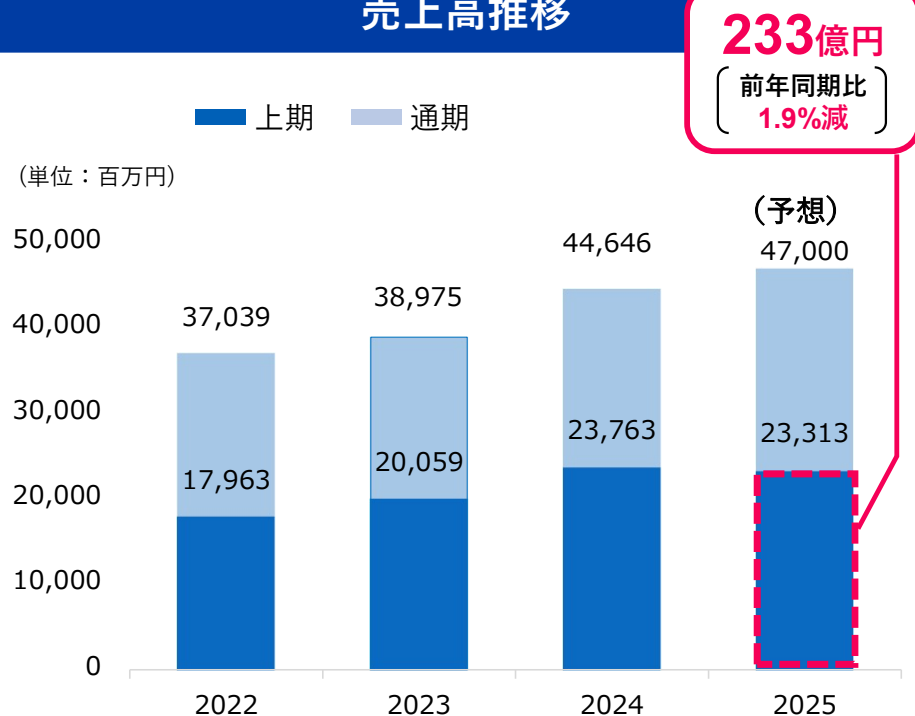
(7)北米事業

2025年12月期 | 中間決算説明会

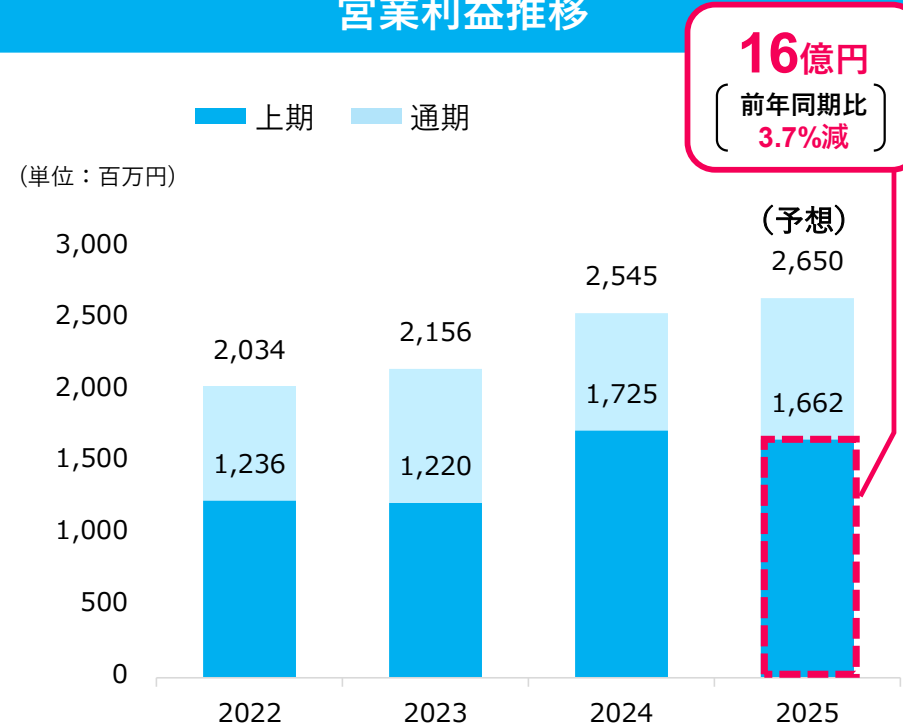


- 本年4月にカナダの物流倉庫を移転・拡張し物流機能の最適化を推進したこと等が、幅広い分野での各種ホース・継手の販売機会獲得に繋がったものの、米国新政権の関税政策による不透明感が継続したことに加えて、ドル円相場が前年同期に比べて円高で推移したことにより減収となった。
- 営業利益は、カナダの倉庫移転に伴う費用負担等により減益となった。

売上高推移

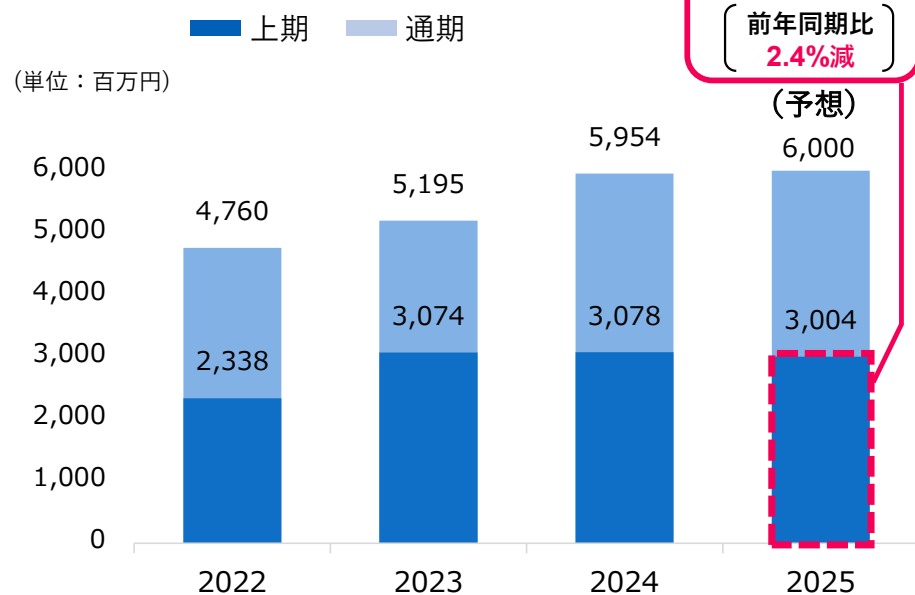


営業利益推移

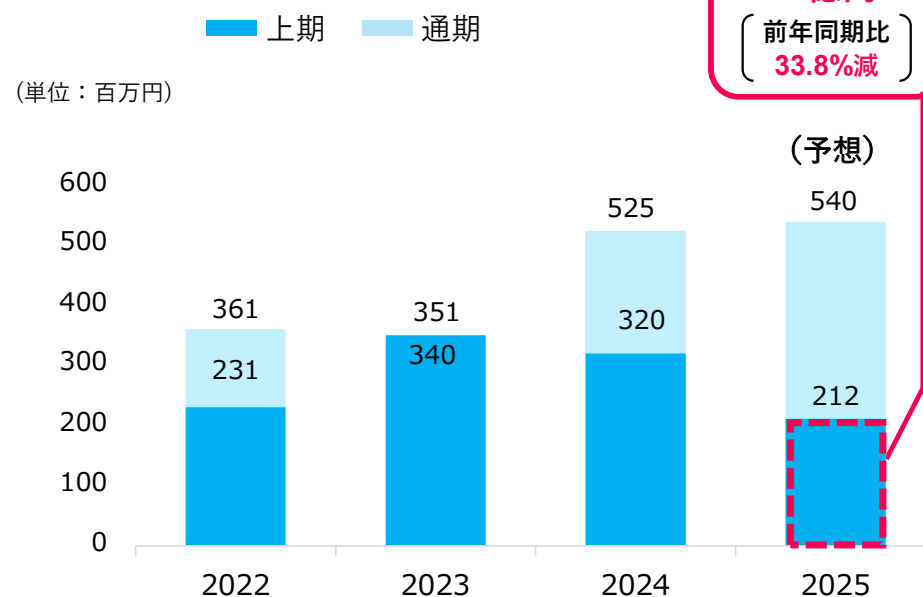


- アルゼンチンをはじめとした地域におけるオイルガス市場向けの販売が増加したものの、主力の「消防用ホース・ノズル」の販売が軟調に推移。さらにユーロ円相場は前年同期に比べて若干の円高水準となったため減収となった。
- 営業利益は、アルゼンチンの子会社に対する超インフレ会計適用がマイナス要因となったこと等から、減益となった。

売上高推移



営業利益推移



(9)要約貸借対照表

2025年12月期 | 中間決算説明会



総資産

139億円（19.6％）増加

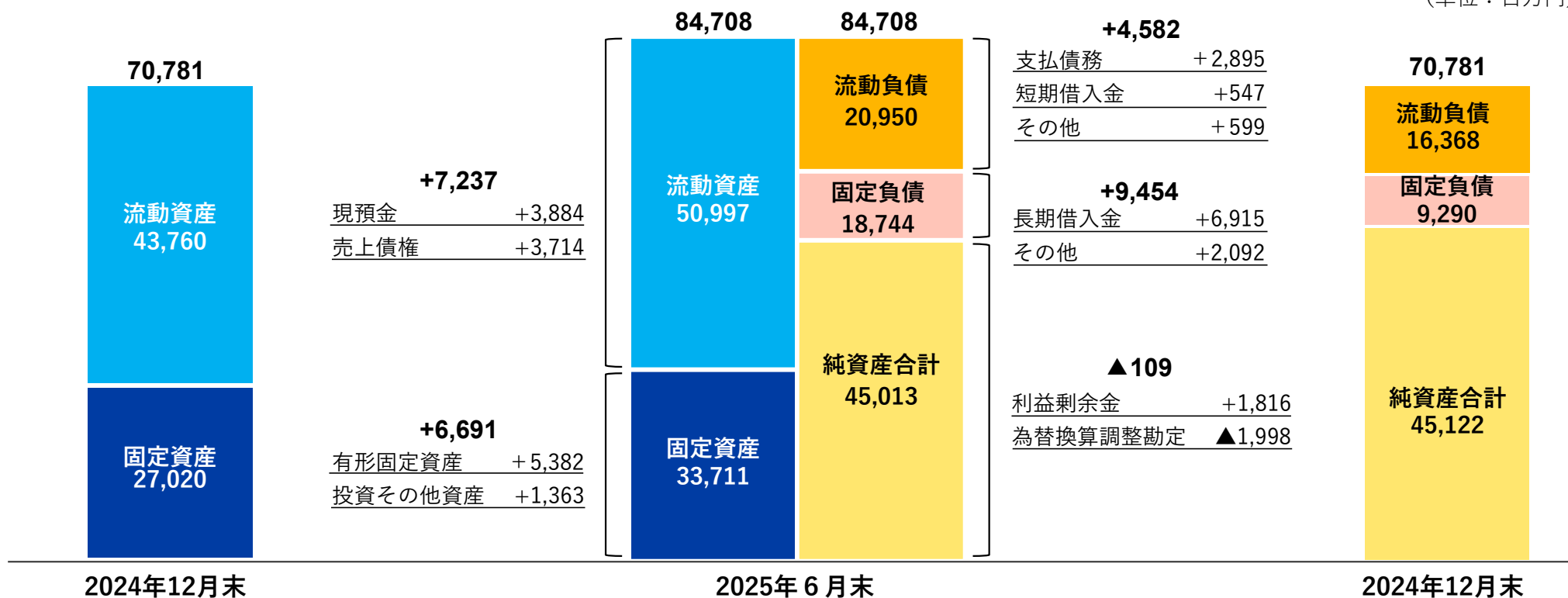
70,781百万円（2024年12月末） → 84,708百万円（2025年6月末）

自己資本比率

10.6ポイント減少

63.7％（2024年12月末） → 53.1％（2025年6月末）

（単位：百万円）



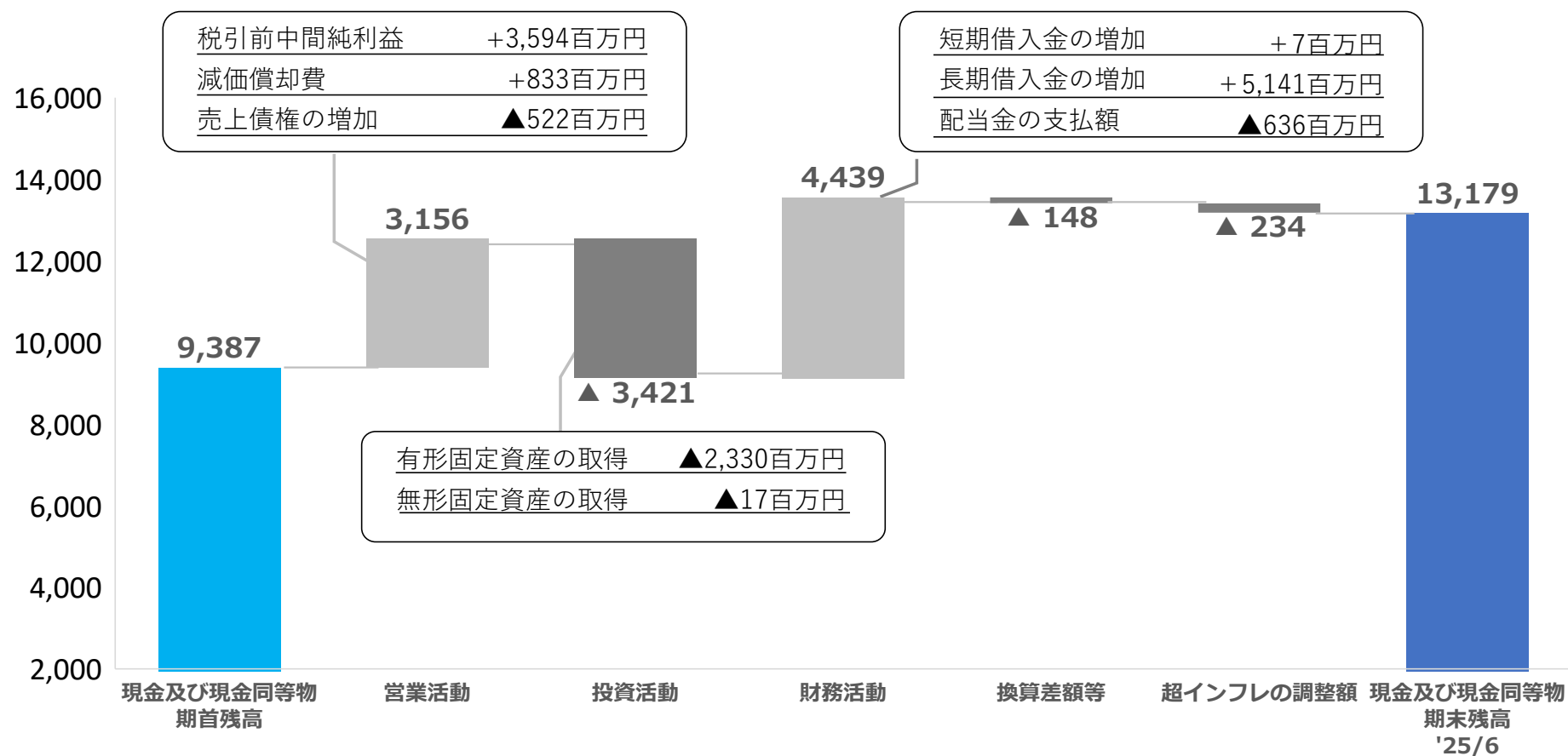
(10) キャッシュ増減要因

2025年12月期 | 中間決算説明会



期首残高比 ▶▶▶ **3,792百万円 増加**

(単位：百万円)





02

2025年度 通期連結業績見通し

2025年12月期 | 中間決算説明会

(1)連結業績予想

2025年12月期 | 中間決算説明会



(単位：百万円)

項目	2024年12月期 (実績)	2025年12月期 (予想)	前年比	
			増減額	増減率(%)
売上高	77,895	90,000	+ 12,105	+ 15.5
営業利益	4,539 (利益率：5.8%)	4,000 (利益率：4.4%)	▲ 539	▲ 11.9
経常利益	5,250 (利益率：6.7%)	4,800 (利益率：5.3%)	▲ 450	▲ 8.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,545 (利益率：4.6%)	3,600 (利益率：4.5%)	+ 54	+ 1.5
ROE	8.4%	7.7%		

為替レート

2024年(実績) USD=151.57、CAD=110.65、EUR=163.94、RMB=21.02

2025年(予想) USD=150.00、CAD=107.00、EUR=157.00、RMB=20.00

(2)セグメント別 業績予想

2025年12月期 | 中間決算説明会



(単位：百万円)

セグメント		2024年12月期 (実績)	2025年12月期 (予想)	前年比	
				増減額	増減率(%)
アジア事業	売上高	27,293	37,000	+ 9,706	+ 35.6
	営業利益	2,683	2,405	▲ 278	▲ 10.4
	産業資材	売上高 16,566 営業利益 2,100	25,800 1,820	+ 9,233 ▲ 280	+ 55.7 ▲ 13.3
	スポーツ・建設資材	売上高 9,899 営業利益 863	10,700 580	+ 800 ▲ 283	+ 8.1 ▲ 32.9
その他	売上高	826	500	▲ 326	▲ 39.5
	営業利益	▲ 281	5	+ 286	—
北米事業	売上高	44,646	47,000	+ 2,353	+ 5.3
	営業利益	2,545	2,650	+ 104	+ 4.1
欧州・南米・ オセアニア事業	売上高	5,954	6,000	+ 45	+ 0.8
	営業利益	525	540	+ 14	+ 2.8
連結	売上高	77,895	90,000	+ 12,104	+ 15.5
	営業利益(※)	4,539	4,000	▲ 539	▲ 11.9

※全社費用はセグメント別の営業利益には案分しておりません



03

中期経営計画の進捗状況

2025年12月期 | 中間決算説明会

(1)中期経営計画①：長期構想「KURIYAMA MANAGEMENT PLAN (KMP)」について

創業100周年となる2039年を見据え、
クリヤマ マネジメントプランを遂行し、
持続的な成長を実現する

**2039年
企業価値を最大化**
“世界をつなぐ、未来を描く”

KMP Action1

2025年 ▶▶ 2027年

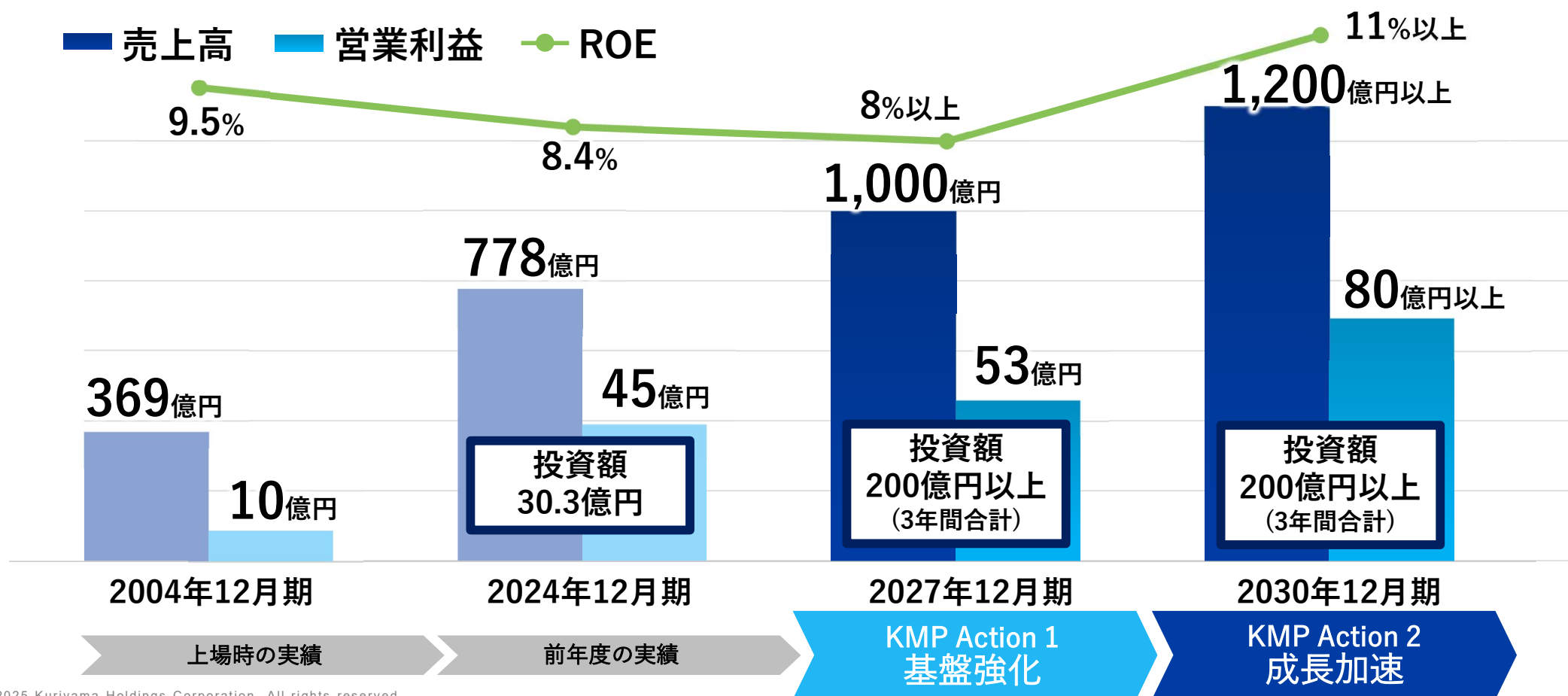
KMP Action2

2028年 ▶▶▶ 2030年

**KURIYAMA
MANAGEMENT
PLAN2039**

(2)中期経営計画②：2030年（KMP Action2）までの数値目標

これからの3年間で**基盤を強化**、次の3年間で**成長を加速**



(3) 中期経営計画③：2027年（KMP Action1）の骨子

中期経営計画「KMP Action 1」

PBR1倍超え
早期実現へ
向けて

01 事業戦略

[産業資材事業]
農機・建機・商用車市場での
更なる成長

[スポーツ・建設資材事業]
強固な収益基盤の形成

[ホース：北米事業]
北米市場での優位性追求

[ホース：欧州・南米・オセアニア事業]
フロンティア領域の開拓

02 財務戦略

資本収益性の強化

キャピタルアロケーションの
最適化

株主還元の充実

03 経営基盤強化

研究開発の促進

DX改革の推進

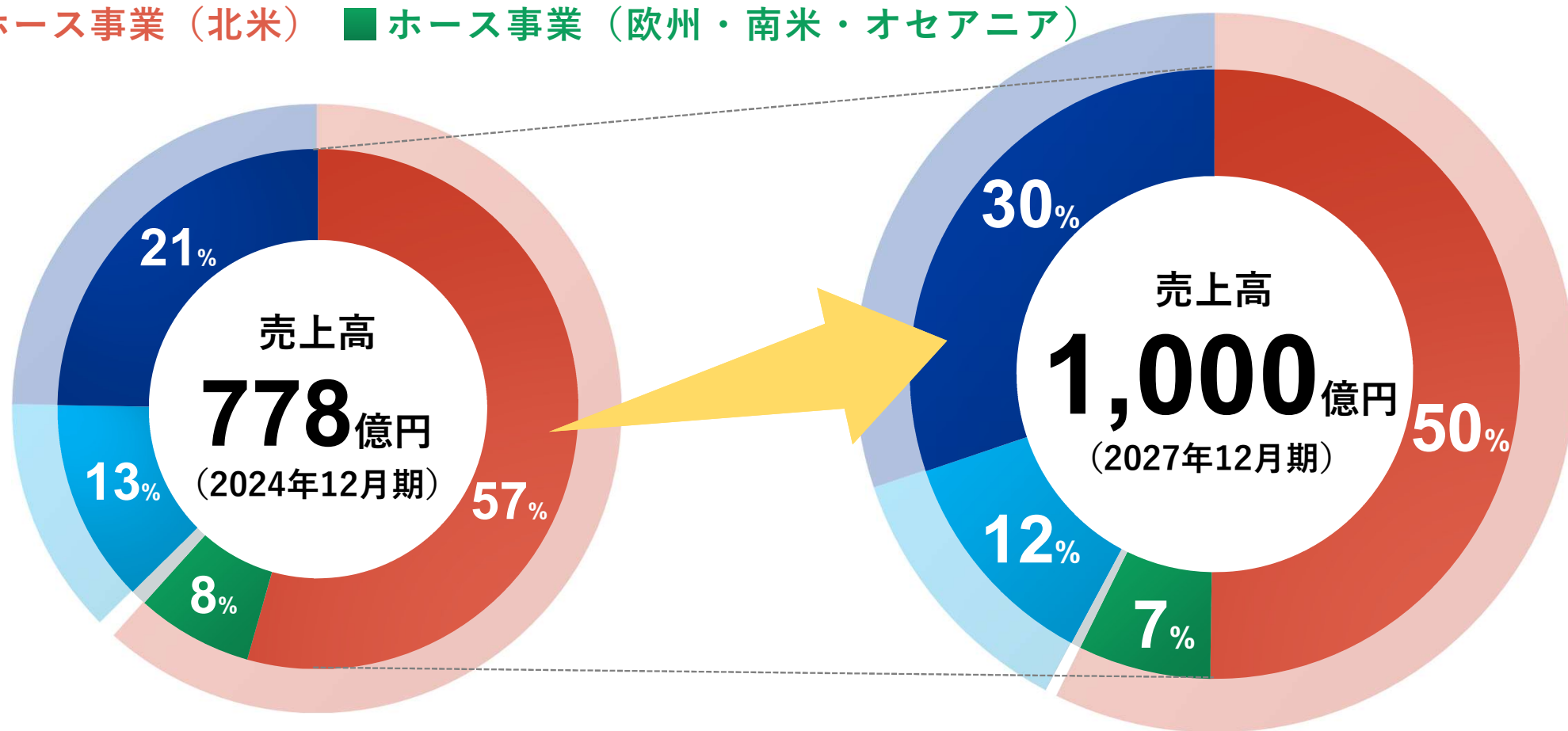
人的資本の強化

ガバナンスの強化

IR活動の強化

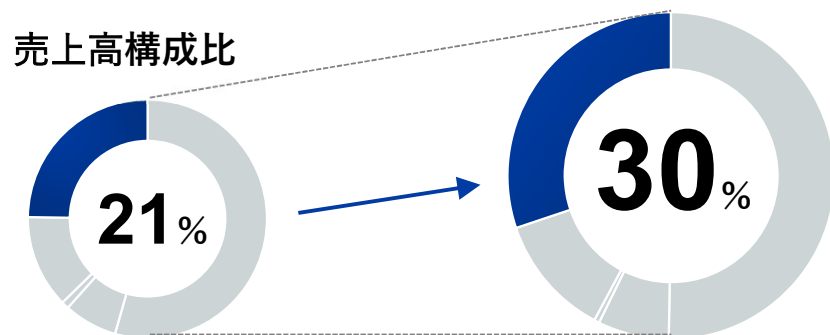
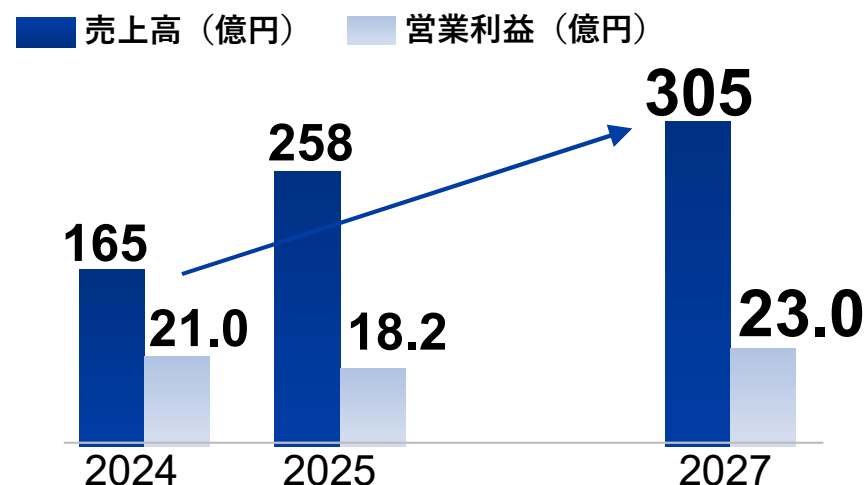
(4)中期経営計画④：事業戦略／事業別売上高計画：2027年（KMP Action 1）

- 産業資材事業
- スポーツ・建設資材事業
- ホース事業（北米）
- ホース事業（欧州・南米・オセアニア）



(5)中期経営計画⑤：事業戦略／産業資材事業：2027年（KMP Action 1）

農機・建機・商用車市場での更なる成長を目指す



01. M&A シナジー効果の最大化

- ✓ 2025年4月、ゴム・樹脂製品メーカーの株式会社ミトヨをグループ化
- ✓ 製造、研究開発、営業、物流等でシナジー効果を発揮

02. 最大市場の北米へ進出

- ✓ 日本のビジネスモデル展開による新規開拓

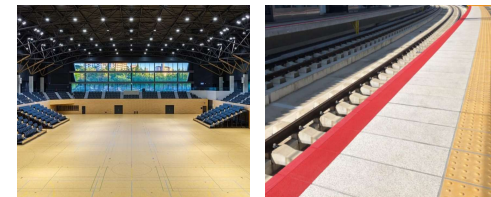
03. センサー技術を軸とした成長

- ✓ 欧州等を中心に環境規制強化は継続
- ✓ 尿素SCR関連製品の需要取込みと次世代センサーの開発

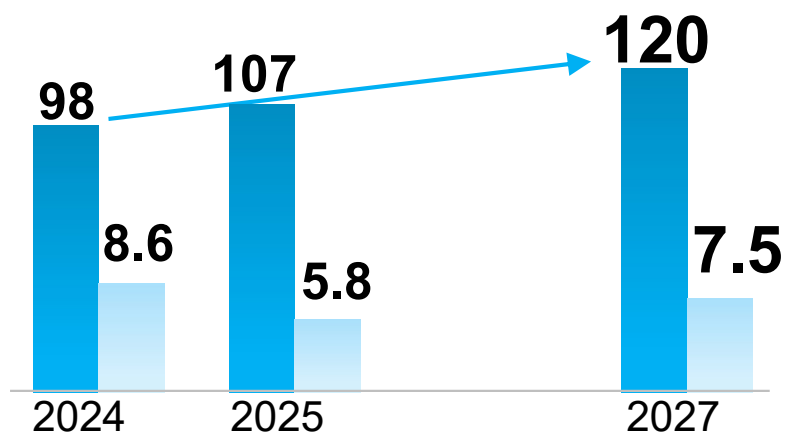


(6)中期経営計画⑥：事業戦略／スポーツ・建設資材事業：2027年（KMP Action 1）

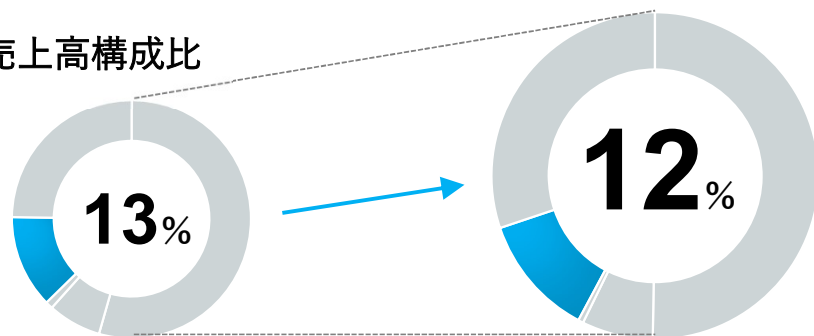
国内市場において強固な収益基盤の形成を目指す



■ 売上高（億円） ■ 営業利益（億円）



売上高構成比



01.インフラ施設の老朽化・安全対策の需要取込

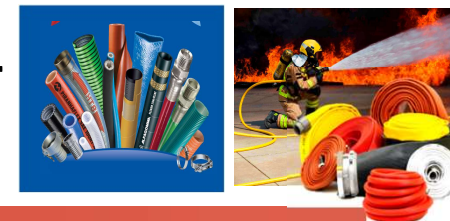
- ☑ 老朽化したフローリング体育館の改修需要、駅の安全対策強化に伴う改修需要等を着実に取込み

02.工事受注比率の拡大

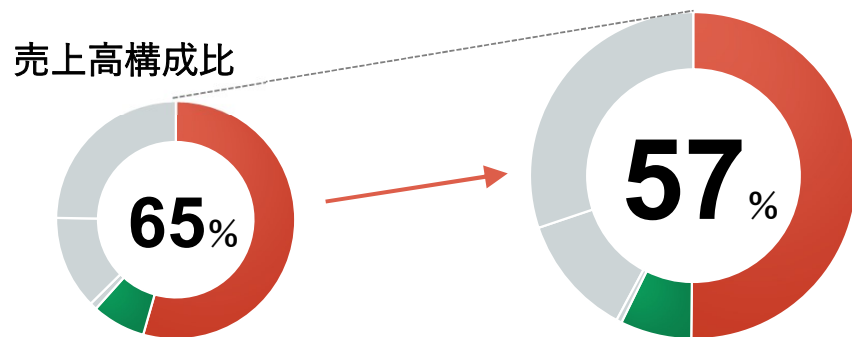
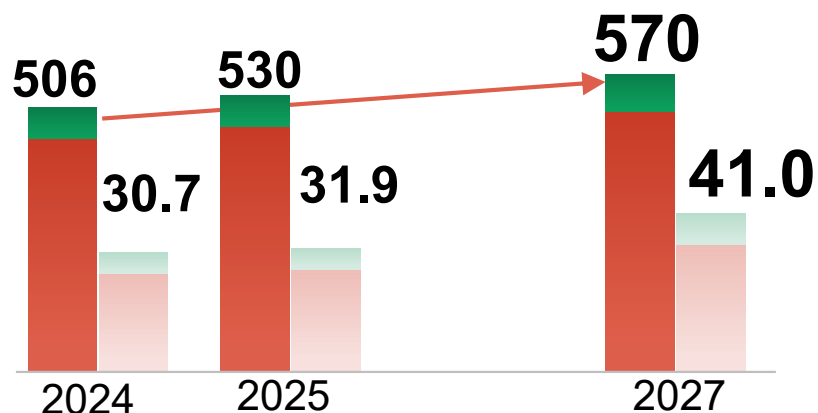
- ☑ 営業の効率化、施工品質の向上、施工人財の多様化等により、工事受注を高め競争力を強化

(7)中期経営計画⑦：事業戦略／ホース事業：2027年（KMP Action 1）

グローバル展開・連携加速による収益性向上を目指す



■ 北米 売上高(億円) ■ 欧州・南米・オセアニア 売上高(億円)
■ 北米 営業利益(億円) ■ 欧州・南米・オセアニア 営業利益(億円)



01.北米市場での優位性追求

- ✓ 米国本社・支店、カナダの物流倉庫の移転・拡張により競争力を向上
- ✓ 米国・カナダのホース製造ライン増設により地産地消体制を強化

02.未開拓市場への深耕

- ✓ 2024年1月、オーストラリアに販売会社設立
- ✓ グローバルベースでの連携強化により販路拡大

(8)進捗状況(トピックス) ①：産業資材事業「M&A効果の最大化（株式会社ミトヨとのシナジー）」

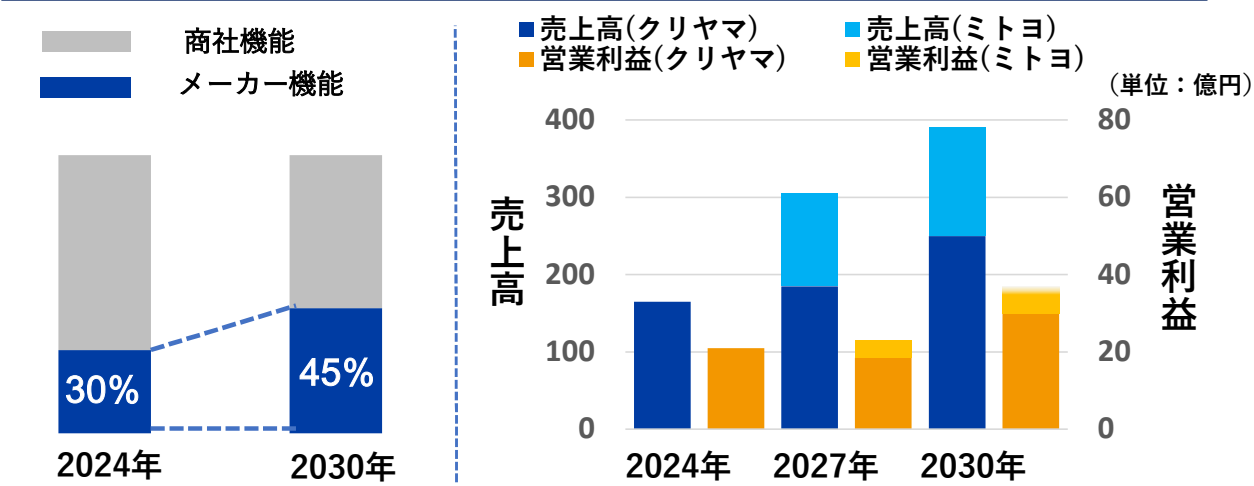
メーカー機能を拡充し、グローバルベースで
製造・物流機能を有する事業への発展を目指す

投資額：約61億円

2025年4月に
グループ化完了
(第2Qより連結取込み)

- 01. メーカー機能強化
- 02. 尿素SCR関連商材における
一気通貫での製造・販売
- 03. エリアの相互補完
(グローバルベース)
- 04. スポーツ・建設資材事業での
総合提案力の向上
- 05. 新規製品等の開発・製造
- 06. 人財交流と付加価値の創造

【産業資材事業】メーカー比率と今後の成長性



クリヤマ、ミトヨのグローバルネットワーク

国内				アジア			欧米・オセアニア		
クリヤマ	関東	関西	九州	中国	タイ		北中南米	欧州	オセアニア
ミトヨ	関東		九州	中国	タイ	マレーシア			

(9)-1 進捗状況(トピックス) ②-1：北米ホース事業「物流機能の拡充」

物流機能の拡充により競争力・優位性を向上させる

投資額：約2億円
(US\$1.2M)

アメリカ

Kuriyama of America, Inc (KOA)

2024年2月

・ 本社及び本社物流倉庫の移転・拡張

【拡張後】 約3万平米
(約33万平方フィート)

旧倉庫の約2.5倍

2025年3月

・ 北東部の物流倉庫の移転・拡張

【拡張後】 約1万平米
(約12万平方フィート)

旧倉庫の約2.5倍

カナダ

Kuriyama Canada, Inc (KCI)

樹脂ホース製造・開発

Kuri Tec Corporation (KTC)

物流・組立

Before

同建物内で分業

2025年4月

物流・組立機能を新拠点に移転・拡張

旧倉庫の約2.4倍

After

それぞれの役割に特化

移転・拡張

樹脂ホース製造・開発

物流・組立

拡張

(9)-2 進捗状況(トピックス) ②-2：北米ホース事業「物流機能の拡充」

「Kuri Tec Corporation (KTC) 物流倉庫の移転・拡張」

投資額：約2億円
(CAN\$1.9M)

新倉庫の概要

- ✓ 所在地
 - ・ オンタリオ州ウッドストック市 (カナダ)
 - ← 同州ブラントフォード市より移転
- ✓ 面積
 - ・ 約12,900m²/約139,000sqf
 - ← 旧倉庫：約5,480m²/約59,000sqf
 - 約2.4倍に拡張



KTC本社



開所式の様子

01.物流・組立機能の強化

- ✓ 十分な品揃えと荷捌きスペースの確保
- ✓ アッセンブリー等の付加価値機能を拡充

02.製造機能の強化

- ✓ Kuriyama Canada, Inc(KCI)の空きスペースに
コンパウンド・ホース製造ライン、
リサイクル機を増設

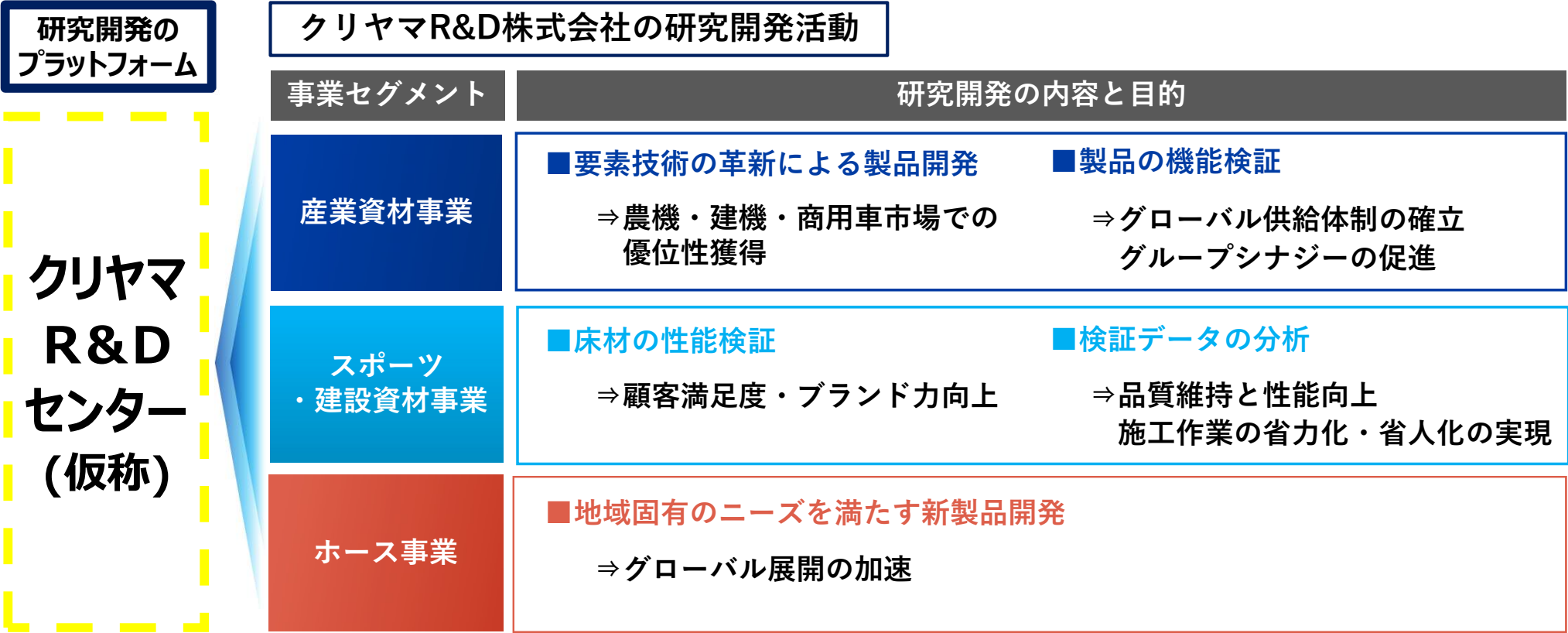


※地図画像：当社作成（ツール：Google地図）

●KOAグループ ●KCIグループ

(10)-1 進捗状況(トピックス) ③-1：研究開発「クリヤマR&Dセンター(仮称)着工 2026年6月竣工予定」

クリヤマR&D株式会社に情報、技術、人財、知的財産を事業カテゴリーを横断して集約し、**新製品や新機能の開発を実現する**



(10)-2 進捗状況(トピックス) ③-2：研究開発「クリヤマR&Dセンター(仮称)着工 2026年6月竣工予定」

グローバルベースで新たな付加価値を創造する 総合研究開発施設

投資額：約30億円

新R&Dセンターの概要

- ✓ 所在地：広島県東広島市八本松
- ✓ 敷地面積：約4,800m²
- ✓ 延床面積：約3,400m²
地上3階建て



完成イメージ



東広島市長への表敬訪問

01.新製品・新素材の開発促進

- ✓ 充実した試験・検査・研究スペースの確保
- ✓ 国内外のエンジニアの知見・技術を蓄積

02.当社取扱製品のブランド価値・信頼性向上

- ✓ 展示エリア設置による営業面との相乗効果



※地図画像：当社作成（ツール：Bing地図）

(11)進捗状況(トピックス) ④：コーポレートガバナンスの強化

人的資本への積極的な投資とガバナンスの強化を通じて 企業価値向上に寄与する人財基盤を構築

2025年3月、
新たに女性社外取締役を選任
⇒社外取締役比率：37.5%
女性取締役比率：25.0%

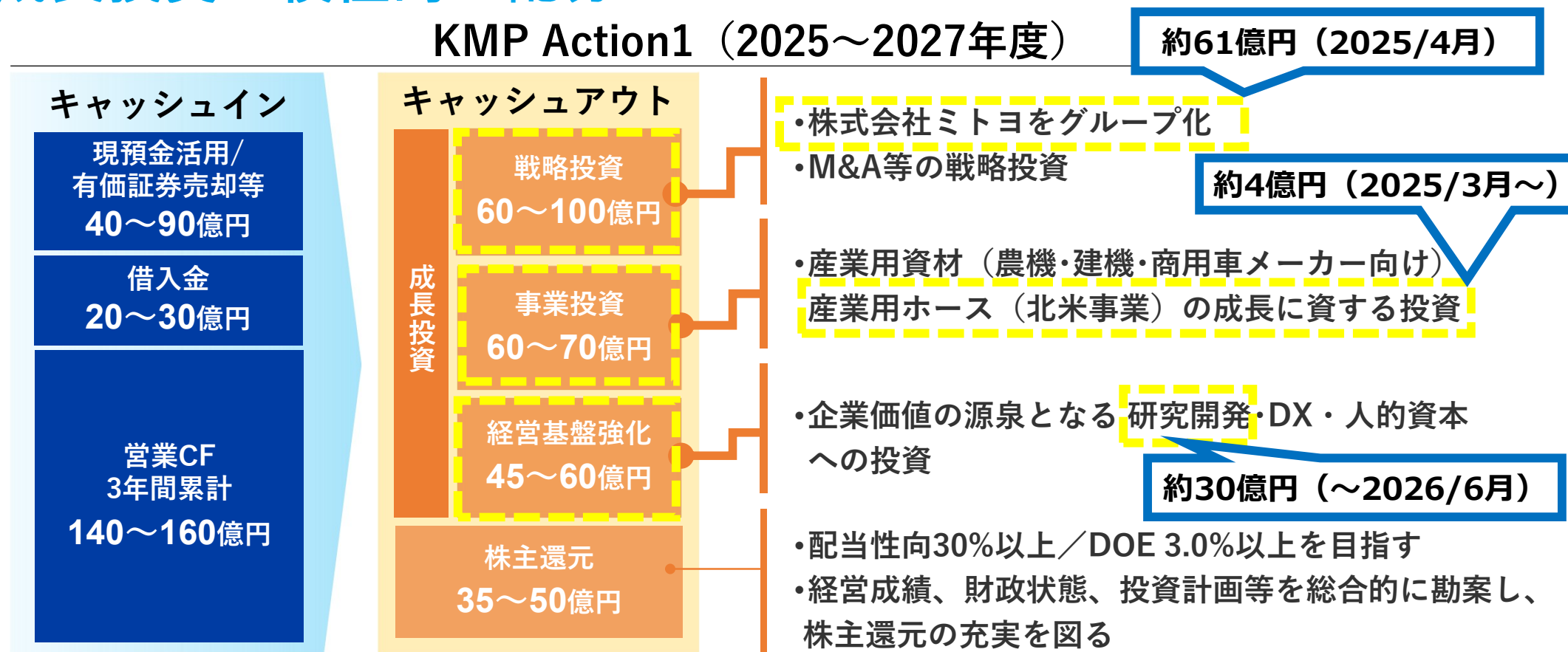
	目的	施策
人財育成	エンゲージメント向上（組織貢献意欲）	- 従業員向け株式付与制度の導入 - 従業員との対話の促進 - 経営戦略を実現する人事制度の追求 - 採用の強化 - 研修制度の充実 - 海外派遣制度の充実
	グローバル人財育成	
労働環境整備 人事DX化	働き方改革	- 人事制度の刷新（賃金、等級、評価） - 健康経営の推進 - 育児休業取得の推進 - オフィス環境の改善、充実 - 一人暮らし支援の強化 - 人事データの高度化 - 人事関連事務の効率化 - 資産の有効活用
	職場環境の充実（福利厚生含む）	
	人事DX化	
ガバナンスの強化	コーポレートガバナンスの強化	・ 役員の多様性確保（外国人及び女性役員、経営・財務・法務などの知見を有する社外取締役の起用） ・ 中期経営計画の進捗に連動した役員報酬制度の導入検討
	情報開示の充実化	・ 個人投資家ページのリニューアル、個人投資家向け説明会の開催 ・ IR資料等の英文開示、機関投資家との積極的な対話 ・ SNSの活用（2025年5月、公式インスタグラムを公開）

(12)進捗状況(トピックス) ⑤：キャピタルアロケーション：2027年（KMP Action 1）

営業CF、借入金及び手元現預金等を原資として、

成長投資に積極的に配分

KMP Action1（2025～2027年度）





04

資本コストや株価を意識した 経営の実現

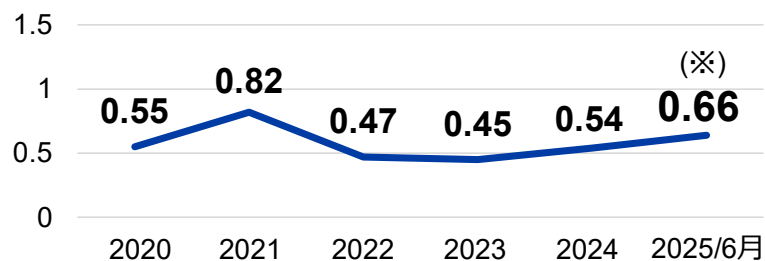
2025年12月期 | 中間決算説明会

(1)取組内容

2025年12月期 | 中間決算説明会

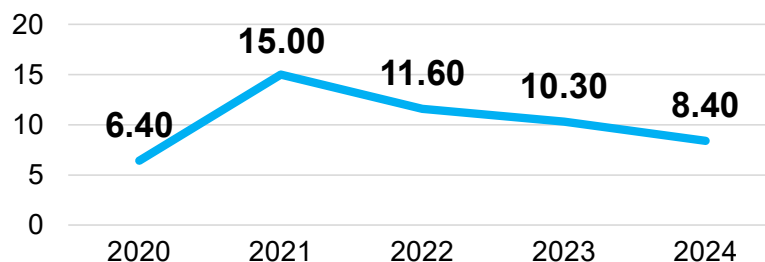


PBR
(倍)



II

ROE
(%)



X

PER
(倍)



(※)2025/6月時点

(※)2025/6月末 株価で算出

中期経営計画の完遂

☑ 資本収益性の強化

01

株主還元の充実

☑ 「安定」「継続」を重視

02

IR活動の強化

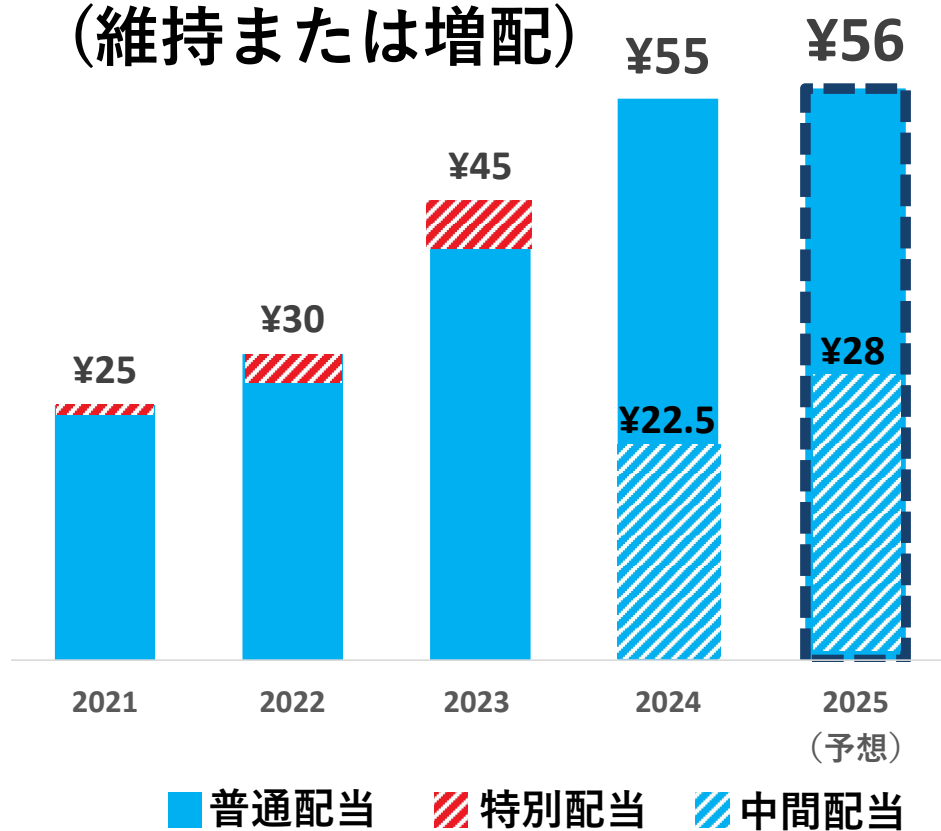
☑ 説明会等による対話の継続
☑ ファン株主の拡大 (←株主優待制度)

03

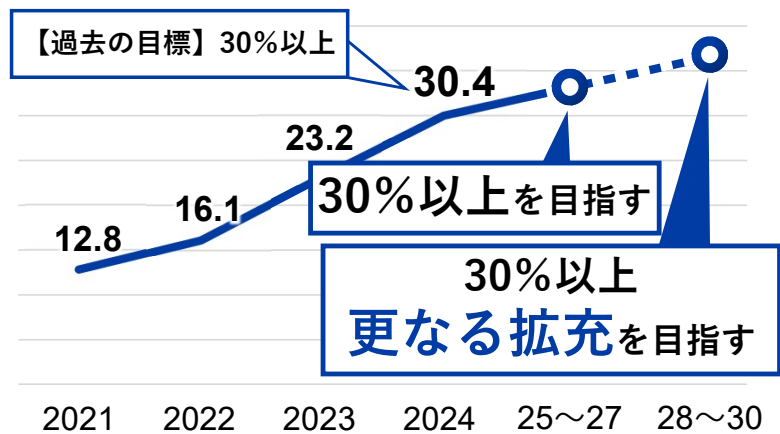
(2)株主還元

■ 配当金の推移

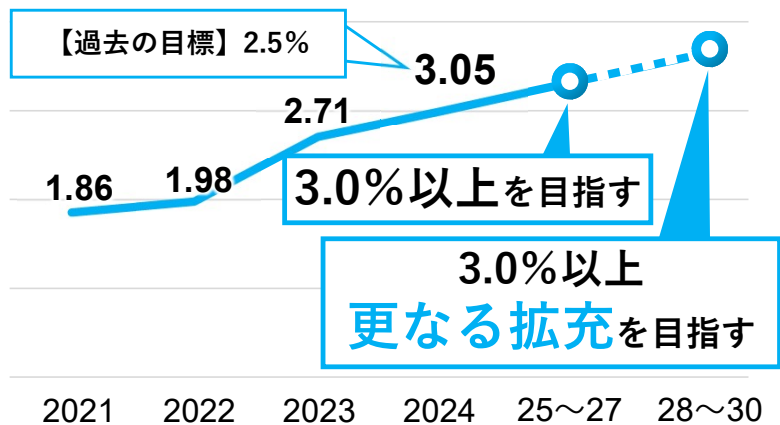
上場来減配なし
(維持または増配)



配当性向



DOE (%)



(3) 株価推移

企業価値向上に資する取組みの着実な実行、
資本コストや株価を意識した経営の実践により
過去最高値を更新





ご清聴ありがとうございました

お問い合わせ先

クリヤマホールディングス株式会社 経営戦略室

〒540-6325 大阪府中央区城見1丁目3番7号 松下IMPビル25階

MAIL IR@kuriyama.co.jp

HP <https://www.kuriyama-holdings.com>

TEL 06-6910-7023

FAX 06-6910-7035



The background of the slide features a dark blue world map with a grid pattern, overlaid on a faint city skyline. The map is centered, and the city skyline is visible at the bottom.

Appendix 補足資料

2025年12月期 | 中間決算説明会

ESG・SDGsへの取り組み

事業を通じて積極的に取り組む課題

持続可能な社会づくりに
貢献する企業グループ

気候変動と大気汚染
による影響軽減に向
け、事業を通じて地球
温暖化や脱炭素の課
題に取り組みます



新素材の活用や生産技術向上に
より、環境負荷低減商品の開発を
強化します



全社的に取り組みを
強化する課題

持続可能な事業の基盤

多様な人材の価値を活かし、
個々の能力を発揮できる組織づくり



廃棄物を資源として再利用、または適正に
処分することで循環型社会に貢献します



人々のニーズに配慮し、公
共交通機関への安全なア
クセスを実現する サステ
ナブルな商品を開発、提
供しています



スポーツ振興を通して人々を支え、
健康社会への発展に貢献します



気候変動と大気汚染による影響軽減に向け、 事業を通じて地球温暖化や脱炭素の課題に取り組みます

- 排気ガスを浄化し大気汚染対策に貢献する「尿素SCR システム」



人々のニーズに配慮し、公共交通機関への安全なアクセスを実現するサステイナブルな商品を開発、提供しています

- 視覚障がい者を守る点字タイル、公共交通機関での転倒事故やけがを防ぐノンスリップタイル
- 駅ホームでの転落事故防止のため、電鉄会社と共同開発した段差・隙間対策商品「スキマモール」



スポーツ振興を通して人々を支え、 健康社会への発展に貢献します

- 競技施設から防災拠点まで多目的機能をもつ弾性スポーツシート「タラフレックス」
- 国内のスポーツ振興に貢献する「日本トップリーグ連携機構（JTL）」をサポート



新素材の活用や生産技術向上により、 環境負荷低減商品の開発を強化します

- NSF（USA）に認定された人体に適した飲料用ホース等の製造販売



廃棄物を資源として再利用、または適正に処分することで循環型社会に貢献します

- セラミックタイルの廃材をリサイクル、都市型洪水やヒートアイランド現象にも貢献する「アクアスルー」
- 製造した消防用ノズルの検査において、工場での水の使用量を削減するため、テストで毎回使用される水は循環型回路を採用
- ホースの製造工程で発生するスクラップの削減と再利用により産業廃棄物量を削減
- ホース製造工程で、工場での排水は浄化システムを採用し、外部機関でシステム性能を監視
- 環境と身体の安全に配慮した人工芝「モンドターフ」・「リモンターフ」



人権を尊重し、多様性のある人財を育成することで“誰もが輝く社会づくり”に貢献します

クリヤマジャパンの働き方改革

アーリーBiz	定時30分前退社を推奨
通勤Biz	時差出勤を可能とする
ランチBiz	昼食時間を自分で選択
ドレスBiz	就業時の服装をTPOに合わせて選択
2×4リフレッシュ休暇	年間休日に加え、四半期毎に2日以上の有給取得を推奨

ダイバーシティの推進

性別や年齢、国籍に関わらず、多様化する価値観等の違いを尊重し、個々の能力を最大限に発揮できるようダイバーシティ経営を推進しています。

再雇用年齢の延長

従業員が再雇用後も生きがいをもって働くことが出来るよう、再雇用者の経験・能力・知識を有効活用し、生活の安定を図ることを目的としています。



奨学金返済支援制度

就学時に借り受けた返還が必要な奨学金の一部について、会社が返済原資として補助金を給付する制度を導入しています。 ※諸条件有り

寮・社宅・住宅取得補助制度

従業員が快適に生活できる環境を実現するべく、通勤圏内に自己が所有する住居が無い方を対象とした各種寮・社宅制度を用意しています。

出産・子育て支援

育児短時間勤務	養育する子が小学校就学前まで短時間勤務が可能です。（法定では3歳未満）
婦人科検診補助	乳がん検診や子宮頸がん検診等の費用を一部補助しています。 ※対象者：25歳以上（扶養対象の配偶者を含む）
子ども手当の支給	



健康経営の推進

当社及びクリヤマジャパン株式会社の「健康経営」に関する各種取り組みは、今年度も「健康経営優良法人2025（大規模法人部門）」に認定されました。



主要通貨の為替感応度※

通貨	売上高	営業利益	2025年度 為替前提
USD	約300百万円	約15百万円	150円
EUR	約45百万円	約3百万円	157円

※1円の変動による影響額(通期)

本資料にかかる注意事項

この資料は投資家の参考に資するため、
クリヤマホールディングス株式会社（以下、当社）の現状を
ご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。

これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、
実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

今後新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、
当社は、本発表に含まれる情報の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

